

● イースターおめでとございます！主の復活を心よりお祝い申し上げます。

イエス様が死を打ち破り墓から蘇られたという驚きの知らせは、私たちに死で全てが終わりなのではないという希望を告げ、同時に私たちもまた古い命に死に新しい命に生まれ変わることができるという希望を告げています。そしてまた、復活されたイエス・キリストは今も私たちの只中に生きておられるという恵みを知らせているのです。

● 今日の聖書はマタイが記したイエス・キリストの復活の場面です。イエスを失った悲しみに暮れる二人のマリアに天使が現れて、「あの方は復活なされたのだ、あなたがたより先にガリラヤに行かれる・・・そこでお目にかかれる」と告げました。この「ガリラヤに行けばイエス様に会える」というメッセージにはどのような意味が込められているのでしょうか？

ガリラヤというのは当時ユダヤの中心地エルサレムから120キロほど離れた地域であり、決して大都会ではなく、むしろガリラヤ湖のある自然の豊かな土地です。そして復活の知らせを受けた女性たちやイエス様の弟子たちにとっては、イエス様と共に宣教の働きを長く続けた場所であり、様々な困難を経験しつつも祈りつつ共に生きた生活の場所でもありました。

つまり、「ガリラヤでイエス様と会える」とは弱さや貧しさを抱えた人間が共に助け合い生きるその人と人の交わりの中にイエス様は生きておられるのだということなのです。

● この時期になると毎年、小学校を卒業した子どもたちが教会を尋ねてきます。それは二葉幼稚園を卒園した子どもたちです。ここに帰ってきたいという思いを持った子どもたちがいるのです。それは、ただ幼稚園で楽しかったということではなく、一人一人が祈りを持って大切に育まれた経験と思い出があるからこそなのでしょう。二葉幼稚園の園歌には「友だち、先生、家族、みんな君が大好き、一人じゃないよ、ほら、そこに君をつつむ祈り」という歌詞があります。不安や孤独を覚える中であって祈り合う私たちにイエス様は今も生きておられるのです。

● また、イエス・キリストは復活されて、この世離れた聖所や神殿に行かれたのではなく、周辺の田舎町であったガリラヤへ行かれたということは、復活されたイエス様は私たちより先にこの社会の厳しい現実の中で働いておられるということでもあります。今、国内外に厳しい生活環境に置かれた方々が沢山おられることを覚えます。そのような課題と向き合うことは恐れや不安を伴いますが、そこでこそ先に働いておられるイエス様と出会えるのだという希望を胸に、喜びを持って宣教の働きに押し出されてまいりましょう。明日から新年度の歩みが始まります。この伊丹教会で共に労苦し、一人一人が祈りで包まれ、育まれる教会をこれから共に築いてまいりましょう。